

日本側拠点機関名	京都大学霊長類研究所
日本側コーディネーター所属・氏名	京都大学霊長類研究所・古市剛史
研究交流課題名	類人猿地域個体群の遺伝学・感染症学的絶滅リスクの評価に関する研究
相手国及び拠点機関名	コンゴ民主共和国：キンシャサ大学、生態森林研究センター、自然科学研究センター ギニア共和国：ボツソウ環境研究所、コナクリ大学、ンゼレコレ大学 ウガンダ共和国：マケレレ大学、ムバララ大学

### 研究交流計画の目標・概要

<p><b>【研究交流目標】 交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。</b></p> <p>日本の霊長類学は、ヒトのルーツを探ることを目標に50年以上前から類人猿の野外研究を続けてきた。とくにチンパンジーとボノボの研究では、アフリカにある15カ所の長期調査地のうち6カ所を京都大学の教員が中心になって運営しており、研究ばかりでなく保全計画の立案や実行にも大きな責任を負っている。</p> <p>アフリカ各地に孤立して散在する類人猿の個体群の多くは、20年後の存続すら危惧される状態にある。絶滅リスクとしては、森林伐採、農地開発、密猟など従来から重大問題とされているもののほか、孤立による遺伝的劣化や人から類人猿への病気の感染が近年大きな関心を集めている。本研究は、これまでの共同研究で培ってきたアフリカ3国8研究機関との協力のもと、各研究機関が管轄する地域個体群の遺伝学的・感染症学的絶滅リスクを評価する。また、それらのリスクを回避する対策についての研究を進め、その成果をそれぞれの国の類人猿保全政策に反映させる。</p> <p>本計画は、これまで2期6年間、本経費の支援によって進めてきた。3研究機関との協力で始まった研究交流は8研究機関を結ぶネットワークに拡大した。また、第1期計画の総括会議でアフリカ側拠点機関からアフリカ霊長類学会を設立したいという要望が出され、第2期計画でその実現にむけて研究者交流等を進めた結果、本年12月にウガンダで開催するシンポジウムにおいて、「アフリカ霊長類研究・保全コンソーシアム」を設立する運びとなった。このコンソーシアムは、日本のリーダーシップのもとで類人猿の研究と保全を進める土台となり、日本とアフリカの若手研究者が共同研究を通して成長するための重要な土俵ともなる。将来的には資金的に自立して運営される予定だが、立ち上がりの3年間については本経費で研究者の交流と年次総会の開催を支援し、将来にわたる発展にはずみをつけたい。本計画の集大成として支援をお願いしたい。</p>
<p><b>【研究交流計画の概要】 ①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。</b></p> <p><b>①共同研究</b> 各国の類人猿の地域個体群を対象として、(1)生息の実態、(2)遺伝的多様性、(3)人獣共通感染症の実態について研究を行う。(1)については、国際的NGOであるアフリカ野生動物保全基金の協力を得てサイバートラッカーとよばれる携帯型の観察記録端末を導入し、共通のフォーマットで類人猿の分布や密度に関する情報を収集する。(2)については、1個体の糞から得られるDNAを全ゲノム解析し、その個体群の遺伝的多様性を推定するという新開発の手法を用いるほか、免疫系をつかさどるMHC領域のDNA多型を評価する新手法で、遺伝的多様性の低下がおよぼす影響について研究する。(3)については、糞試料から病原体の免疫抗体を抽出する方法を用い、どの病原体がどの程度の個体に感染しているかを個体群ごとに調べる。これらの成果を総合して、それぞれの地域の实情に即した保全対策を立案し、各国政府に提案する。</p> <p><b>②セミナー</b> 平成27年はウガンダで、サイバートラッカーの利用と野生個体からの免疫・DNA試料の収集に関するセミナー、28年は霊長類研究所で、収集した試料や情報の分析に関するセミナー、29年にはコンゴで、得られた情報を総合して保全対策を立案するためのセミナーを開催する。これらのテクニックを参加各国の若手研究者が共有することで、この共同研究が将来にわたって継続するための素地を作る。</p> <p><b>③研究者交流</b> ウガンダ、ギニア、コンゴの順で、本年度設立するアフリカ霊長類研究・保全コンソーシアムの年次総会が開催される予定だが、本事業の拠点研究機関の研究者を派遣してその開催を支援し、研究交流を図る。また、年次会合のあとそれぞれの国の研究地を視察し、各国の類人猿の生息実態に関する日本・アフリカの若手研究者間の相互理解を促進する。さらに、本計画の研究内容にとどまらず様々な共同研究のプランを募り、若手研究者の国際化と研究の発展を促す。</p>

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長3年間）終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

